

シビルNPO連携プラットフォーム／since2014

CONTENTS

▼土木に関わる人と活動

▽つなぐ活動

・土木コミュ+IP (2)

：田中努

CNCP通信

VOL.122 / 2024.6.5

■今月の土木■



●岡山県小田郡矢掛町「本陣通り（旧山陽道）」

▼土木のはなし

▽これも土木

・お城における土木の話

(5)：大友正晴

▽子どもが知りたい土木の世界を発見!

・ヘビーエクイップメント

(3) 災害に備えて

▼会員紹介

・青くて、広い、日本の空の実現に向けて！—NPO無電柱ネッター：塚田泰二

▼事務局通信



●無電柱化の施工前と後

■岡山県矢掛町の無電柱化施工前後

矢掛町は官民連携の無電柱化事業で、低コストでの無電柱化を実現しました。重伝建地区なので、景観の向上や、建造物の保護にも配慮し、交通標識や看板を、警察や地元住民と協議して、極力削減する取り組みもあわせて行われました。

NPO法人電線のない街づくり支援ネットワークは、2024年4月現在、151の法人・個人・行政関係者の会員をもつ団体です。無電柱化の推進を是非私達と取り組みませんか。

(塚田泰二)

▼会員紹介に続く。



▼土木に関わる人と活動/つなぐ活動

土木コミュ+IP (インフラパートナー) (2)

土木と市民社会をつなぐフォーラム&土木学会インフラパートナーG 幹事長
CNCP 常務理事&事務局長
(メトロ設計 取締役)

田中 努



■「土木コミュ+IP」を始めます

「土木学会 土木広報センター インフラパートナー・グループ」については、4月号に紹介し、この「土木コミュ+IP」は、先月5月号から始めました。

「土木広報センター」は、土木と市民をつなぐ面白い活動を、精力的に展開しています。世の中には、知らないから見ただけで、見てみると面白い！っていうのは、沢山ありますね。ここ「土木コミュ+IP」では、土木広報センターとインフラパートナーの取り組みを紹介していきます。

■インフラパートナーのサイトのコンテンツ

インフラパートナーの土木学会のサイトは、「<https://infrapartner.jsce.or.jp/>」から見て下さい。(CNCP 通信にも寄稿していただいています。)



●What's New

インフラパートナーに関わる土木学会の活動や、各インフラパートナー団体からのお知らせが掲載されます。

●制度の目的 (以下の内容が掲載されています)

未曾有の新型コロナウイルスの災禍では、人との「つながり」や「連携」の重要性がいっそう強く感じられました。インフラの世界においても、「ユーザー」(市民)と「サプライヤー」(管理者)を二分法的に捉えるのではなく、本源的な姿、つまり、一般市民と行政の間でも、「連携」がものごとの基本であると考えます。

では、土木学会では何ができるのか？ 土木学会は、「協働者」としての市民との連携、つまり、『市民協働活動*』を行う団体と新たな関係性の構築・充実を図ります。具体的には、『インフラパートナー制度』を設立し、協働活動に関わる個人や団体を『インフラパートナー』と位置付け、土木学会として連携・協力し、インフラ関連の活動の活性化、また、地域のインフラの質的向上を図ります。

*行政、国土・インフラ管理者などと一緒になってインフラに関わっていく活動。

●制度のイメージ

土木学会とインフラパートナー団体とで基本的な連携・協力事項について「合意書」締結します。4月号でも紹介した「合意書」の内容が示されています。



■インフラパートナー団体

18のインフラパートナー団体のサイトと案内を、北海道から中部・北陸までの10団体を、順に紹介します。是非、それぞれのサイトをご覧ください。(次月号は関西から九州まで)

団体名をクリックすると、それぞれのサイトに飛びます。

●北海道（土木学会：北海道支部）

●一般社団法人 シーニックバイウェイ支援センター：北海道 札幌市【CNCP 通信：2021 年 9 月 Vol.89】

「みち」をきっかけに地域の人々が「主役」となり、行政や企業等と「連携」しながら「広域的」に、「・美しい景観づくり／・活力ある地域づくり／・魅力ある観光空間づくり」の「愛着」と「誇り」の持てる「地域」を実現する取組です。

一般社団法人シーニックバイウェイ支援センター（略称：リソースセンター）は、平成 17 年 7 月に設立しました。シーニックバイウェイ北海道の理念の浸透や、活動の活性化を図るための広報活動、民間と行政との連携を図り、美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりに貢献することを目的として活動しています。また、シーニックバイウェイ北海道全体の広報やプロモーション活動を中心として、地域や企業と連携し、新たな滞在型観光のメニュー作りや日本風景街道との全国的なネットワーク作り等も行っています。



●NPO 法人 ほっかいどう学推進フォーラム：北海道 札幌市【CNCP 通信：2022 年 10 月 Vol.102】

当法人の活動は平成 28 年 3 月に閣議決定された第 8 期北海道総合開発計画の中に「ほっかいどう学」が定義されたことから始まります。その後、令和元年 8 月に法人登記され、活発に活動を推進しています。設立の目的は「北海道の魅力や地理、歴史、文化、産業等を「ほっかいどう学」として、子どもから大人まで幅広く学び、地域に関する理解と愛着を深める取組を促進すること」です。そのための活動内容は大きく 4 つあります。これらの活動を通じて、北海道を愛し、北海道をよく知り、北海道のさらなる発展に貢献する多様な人材を育成することで、将来的に北海道全体の魅力が高まると同時に、より柔軟な課題の克服が可能になるものと確信しています。



NPO 法人ほっかいどう学推進フォーラム

●東北（土木学会：東北支部）

●NPO 法人 青森 ITS クラブ：青森県 青森市

青森県は本州の最北端に位置しており、青森市は県庁所在地都市では全国で唯一特別豪雪地帯に指定されている日本有数の豪雪地帯である。そのため、雪国特有の問題である吹雪や視界不良による交通障害への対応、生活交通を確保するための除排雪や歩行者の安全確保など固有の課題が多く、これらを解決するために地域の知恵と工夫が求められている。

NPO 法人青森 ITS クラブでは、安全安心を目指し、2002 年より冬期の豪雪地域における ITS（高度道路交通システム）の活用に取り組み、地域に貢献している。



●みんなで守る。橋のメンテナンスネット：福島県 郡山市【CNCP 通信：2021 年 10 月 Vol.90】

このウェブサイトは 2012 年 6 月から、福島県郡山市にある日本大学工学部土木工学科構造・道路工学研究室において、住民や小中高生、自治体、地元企業などと連携し、道づくりや橋守（はしもり）などに取り組んできた活動を紹介し、活動に用いたツールなどを掲載したものです。また、こうした活動に自発的に参加いただくためには、小中高生やその親と一緒に社会インフラの現状や課題について学ぶことが重要と考え、小中高生の発達段階に応じた教育コンテンツも掲載しています。

その背景には、社会インフラの老朽化が進行し、技術力や財政力が



十分でない小規模の自治体では、インフラの安全性や地域の存続そのものが脅かされているため、みんなでこの問題を考え、行動に移すきっかけになればとの思いがあります。

サイトは土木を専門としない方々に対しても、親しみやすく、自然に入り込めるよう、デザインやフォントを工夫しています。また、こうした取り組みを安全に実施するための「10の活動に際する規約」を設け、安全に対する配慮を促しています。このサイトを見て、自分たちの地域でも道づくりや橋守を行いたいと感じたら、是非下記連絡先にお問い合わせください。

●庄内・社会基盤技術フォーラム：山形県 酒田市【CNCP 通信：2022年12月 Vol.104】

山形県庄内地域の土木技術者のレベルアップと連帯感を高めることをねらいとして、産学官の土木技術者有志が連携し、研修及び交流の場を提供することにより、地域の土木技術者が新しい技術動向をとらえ、自ら応用し、更に他地域への情報発信をめざすことを支援し、地域の発展に貢献するとの趣旨のもと「庄内土木フォーラム」として、準備委員会を平成10年11月に発足。

平成16年7月、自然環境を無視できなくなった社会環境、及び建築分野を包含することによるフォーラムの拡大発展と活性化を目的に名称を「庄内・社会基盤技術フォーラム」に変更を行った。

平成11年3月の第1回フォーラムから21年に渡り、毎年年に1~2回の発表会を開催して、今年度で第26回の開催を行っている。

●関東（土木学会：関東支部）

●NPO 法人 シビルNPO 連携プラットフォーム (CNCP)：東京都 台東区

私たち「特定非営利活動法人シビルNPO 連携プラットフォーム(略称 CNCP)」は、土木学会が、100周年記念事業の中で、シビルNPO等のネットワーク化と活動強化を図り、行政や企業、教育・研究機関そして地域・市民組織などのパートナーシップを通じて、より良い地域社会を構築することを目的として、設立したNPO法人です。

2014年に設立来、地域活動推進・サービス提供・事業化推進の3つを柱に様々な活動に取り組んできました。「CNCP 通信(月刊)」にはNPOの活動紹介や意見・提案などを発信しています。また、土木学会の小委員会と「土木と市民社会をつなぐフォーラム」を立ち上げ、「インフラメンテナンス国民会議」の「市民参画(公認)フォーラム」を運営し、「インフラテクコン」を共催したりしています。

私たちは、さらに「プラットフォーム事業」に取り組めます。CNCP内外の社会課題の解決を目指すNPO・市民団体・個人・企業・行政・大学等の方々に、①学会や企業ではやりにくくインフォーマルな「場」、②法人格、③人的ネットワーク、④コミュニケーションツール、⑤経営資源、⑥NPO運営のノウハウなどの提供や支援を行います。



●NPO 法人 国境なき技師団：東京都 新宿区【CNCP 通信：2022年5月 Vol.97】

NPO 国境なき技師団 (Engineers Without Borders Japan: EWB Japan) は、2004年のインド洋地震・津波災害を契機に設立され、土木・建築技術の側面からインドネシア・スマトラ地区の災害復興における技術指導等の支援を行ってきました。また、2011年3月11日東日本大震災が発生、大津波が三陸沿岸域の市街地を襲い社会インフラが壊滅的被害を受けましたが、被災地の復興には膨大な事業と長い年月が必要です。しかし、被災地自治体の土木・建築技術者数は少なく、そこで EWB Japan は、2012年から岩手県大船渡市、陸前高田市に土木・建築系のシニア技術者を派遣して自治体インフラの復興に寄与してきました。震災後10年目を迎える現在も継続しています。



次に、EWB Japan は、早稲田大学及び京都大学の現役の大学生による防災教育サークル活動を支援しています。学生たちは「次代を担う子供たちへの防災教育が重要」をモットーに、国内各地の小学校を訪問し、その「草の根的な活動」が高く評価されています。海外では自然災害が多発しているインドネシアに15年間、フィリピンにも4年間、EWB Japan と学生が協調し、現地の子供たちへの教育だけでなく、学生自ら

の国際的意識向上を目的として活動しています。2021年、コロナ禍で活動は制限されていますが、オンライン伝達などの手段もあり新たな時代を迎えて、EWBJは「災害に強い人づくり、町づくり」のために、これからも活動は続きます。

●中部・北陸（土木学会：中部支部）

●NPO法人 グラウンドワーク三島：静岡県 三島市【CNCP 通信：2021年11月 Vol.91】

かつて「水の都」と呼ばれた三島市は、1960年代、産業活動の活発化による地下水の汲み上げによって富士山からの湧水が減少し、市内を流れる川は汚れ、ドブ川となっていた。このふるさとの環境悪化に問題意識を持った市内8つの市民団体は、水辺自然環境の再生と復活を目指して、1992年9月に「グラウンドワーク三島実行委員会」を発足させ、英国発祥の市民・NPO・企業・行政のパートナーシップによる環境改善活動である「グラウンドワーク活動」を日本で初めて導入した。1999年10月には特定非営利活動法人の認証を受け、現在では20の市民団体が参加したネットワーク組織となっている。

これまでに、ドブ川化した源兵衛川の再生、絶滅した水中花・三島梅花藻（ミシマバイカモ）の復活、松毛川千年の森づくり、里山再生、歴史的井戸や水神さん・お祭りの再生、ホテルの里づくり、学校ビオトープの建設、住民主体による公共施設の維持管理等、70カ所以上のプロジェクトを実践してきた。

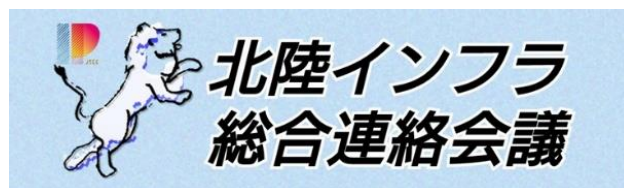
現在、その活動は、環境再生から地域再生、農業再生、人材育成、災害支援等へと発展し、ネパールや韓国、台湾など、海外への技術支援・人材交流にも発展・拡大している。



みんなで協力 身近な環境改善

●北陸インフラ総合連絡会議：富山県・石川県・福井県【CNCP 通信：2022年9月 Vol.101】

北陸インフラ総合連絡会議は、北陸道路研究会と北陸3県（福井県、石川県、富山県）コンクリート診断会から構成される団体です。本会議は、建設会社、コンサルタンツ会社などの民間企業（産）、大学（学）およびインフラを管理する地方公共団体（官）のメンバーが構成員となっており、北陸地域の産学官連携体制を構築しています。



本会議の主な活動内容は、以下になります。

- ・各団体・組織の土木セミナーなどの活動展開
- ・各団体の活動による情報の共有化
- ・産官学の技術者連携による技術者育成
- ・各学会、各協会および各種委員会などの情報共有と選択・集中したセミナーの開催

●NPO法人 神岡・町づくりネットワーク：岐阜県 飛騨市【CNCP 通信：2021年8月 Vol.88】

※「Gattan Go!!」の運営団体です。「<https://rail-mtb.com/>」をご覧ください。

「廃線」というと皆さんは何を思い浮かべますか？ 普通なら、廃線にならないための保存活動から始まり、住民に惜しまれつつ最後のラストラン、そして撤去工事までの、少し悲しいドラマが一般的ではないかと思えます。私たちの町・岐阜県飛騨市神岡町の廃線は、「廃線になってから」が勝負の物語。単純な保存活動から新感覚の観光へと舵を切った、ちょっと変わった廃線です。



▼これも土木

お城における土木の話（6）

アジア航測株式会社事業推進本部
社会インフラマネジメント事業部
大友 正晴



最終回の今回は石垣の構造についてお話しします。

■ 石垣の構造

石垣の断面は右図のようになっています。

石垣の構造で先ず重要なのは、根石です。家を建てる時に土台を構築してその上に家屋を建築しますが、根石は石垣の土台となる部分にあたります。

そして根石の上に石垣の本体である積石を積んでいきます。積石を積む際には、その位置とかを調整する飼石を置きます。また穴太積みなどでよく見られる、積石の表側で積石の隙間を埋める間詰石が用いられています。

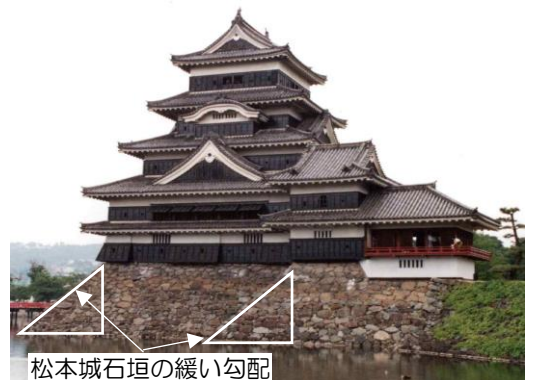
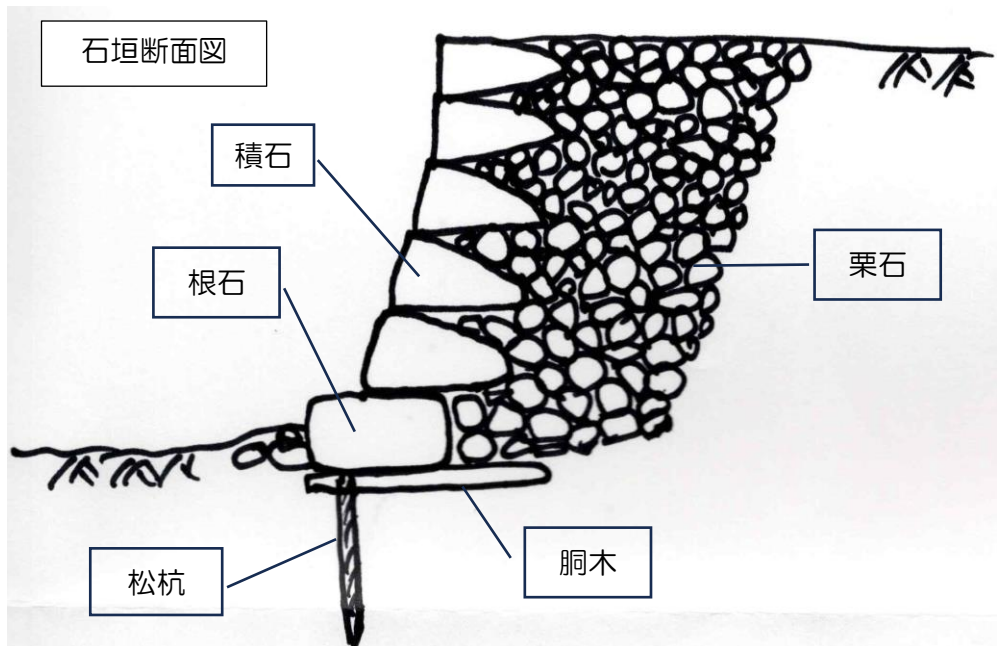
石を積むのに、垂直に積むことは先ず無理です。そこで、斜めに勾配を付けて積みます。昔は、計測機械など無いため、縄などを垂らして縄に沿って積石を積んだと聞いております。

石垣の勾配は、地盤の耐久力（地耐力と言います）の強弱さによって変わります。強固な地盤では垂直に積むことが可能となります。熊本城の石垣に見られます。一方、地盤が弱い場合には、緩い勾配にして積んでいきます。これを寝かせるとか言います。右の写真にあるように松本城の石垣は緩い勾配となっているのが判ると思います。

上右の断面図に胴木と松杭を紹介していますが、地盤の悪いところで石垣を積むときに根石の下に設置する工法です。いまでも、管渠などを敷設する際などよく使われる工法です。胴木とは、梯子胴木とも呼ばれ、長手の木材に梯子のように短い木材を一定間隔で置いてつなげた工法で、梯子を置いたように見えることからこう呼ばれています。

また、松杭も古くから基礎として使われる工法で、梯子胴木と合わせてより強固にする場合もあります。平城などでは河川や湿地付近に造られる場合があります。そういう場所では必ずと言ってよいほど地盤の弱いところがあるため、平城の石垣では胴木や松杭が使われることが多くあります。

石垣の構造の要素で重要な要素として、断面図に記した栗石があります。石垣は積石が表面にあることから、一般の方々は積石だけで出来ていると思われているのではないかと思います。



しかし、強靱な石垣には栗石を厚くしている場合があります。栗石が厚くするほど強固になっていると私は教わっています。盛岡城の石垣修復現場でも栗石を厚くしてあるのを見ています。また、ネットで、静岡城の石垣修復現場写真でも、分厚い栗石が写っていました。

右の写真は、小田原城二の丸中堀の石垣復元工事の時の写真ですが、栗石が厚く築かれているのがわかります。また、小田原城のこの二の丸中堀の石垣の下からは、梯子胴木の遺構がありました。つまり、江戸の頃からこのあたりの地盤は弱いことが認識されていたと思われます。



■ 石垣の弱み

お城において石垣は強固な防御施設として築造され来ました。しかし、石垣もオールマイティではありません。

前の頁でも述べましたが、石垣の積み方、地盤の強度、根石や胴木などの基礎、栗石の厚さなどが不十分だと、その強靱さは損なわれます。

これ以外にも石垣の強敵と言うか弱みがあります。

- 空積みであることから、時間経過とともに、石垣（積石や栗石など）は緩んだりします。
- 地震などの揺れで崩れることも、熊本城でご覧になられた方も多いと思います。前述の小田原城も江戸時代から大きな地震が起きるたびに石垣が崩れたという記録が残っています。
- 樹木による緩み 石垣に松や桜が映えるとして樹木を石垣天端付近に植えられていることが多くあります。しかし、石垣の近くにある樹木は根が張ると石垣を内部から緩めたりして崩壊の要因となることがあります。

【閑話休題】

今年4月17日の夜、愛媛県・高知県でマグニチュード6.6、震度6弱の地震がありました。ニュースによると被災した町の中に下の写真にある外泊という町がありました。この町が石垣の里ということ



を初めて知りました。この町も地震に襲われ、少なからず石垣が崩れている画像が流れていましたが、震度6弱でも思ったより大きく崩れているようには見えませんでした。おそらく、石垣の積み方がしっかりしていたこと、空積みなので水圧を受けていないこと、地盤が意外に堅固だったであろうこと、裏込め=栗石も十分に厚く？造られていたこと？のではないかと考えられます。この町の石垣について何も知りませんので、外れているかもしれません。

ただ、石垣は日本人の生活の中で、今もしっかり共同生活をおくっているという事は、石垣マニアとしてはうれしい限りです。

今回が最後となりました。十分お伝え出来たか分かりませんが、城という工作物にも土木が大きく関わっている事が、少しでもご理解いただけたら幸いです。

▼子どもが知りたい土木の世界を発見！

Heavy Equipment ヘビーエクイップメント



こんにちは。
ヘビーエクイップメントの
記者のやまだだよ。
今回のヘビーエクイップメントは、
ぼくのお姉ちゃんたちが取材してきた
特別号で「災害に備えて」だよ。

大きな地震がお正月にもあって、地震怖いよね。
災害に備えて、みんなはどんなことをしている？

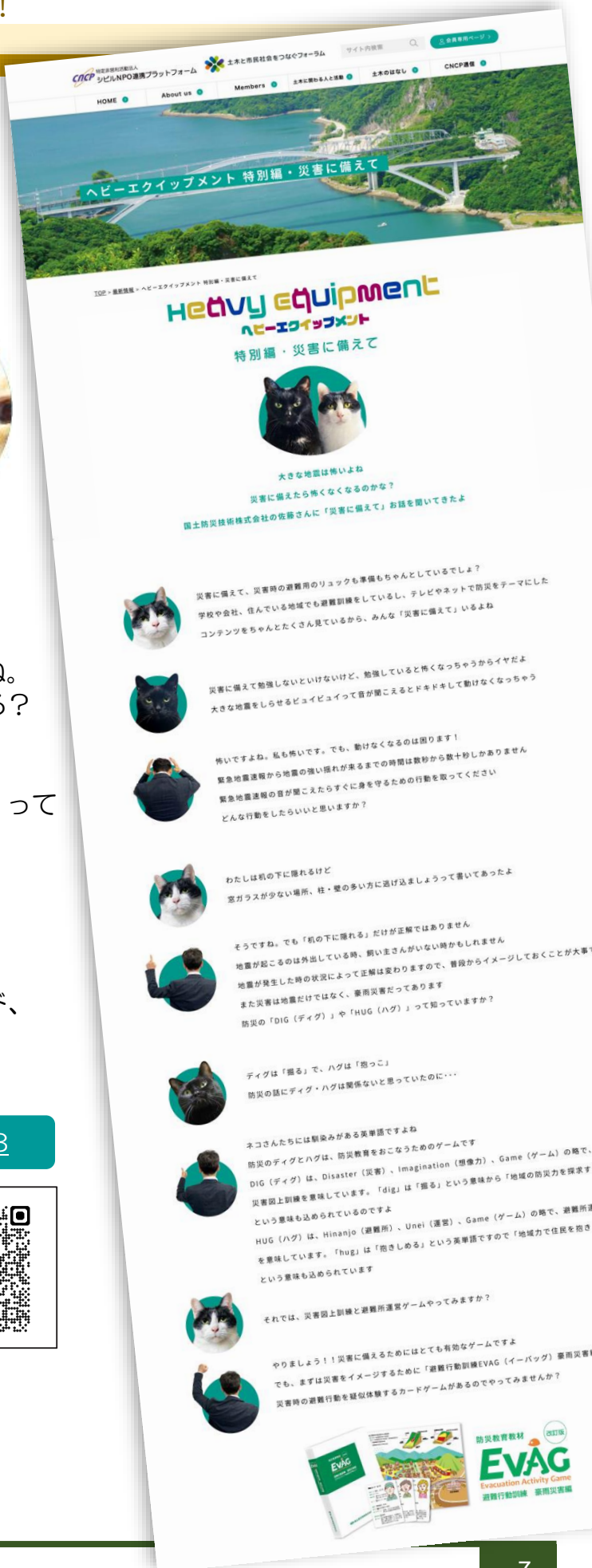
お姉ちゃんは大きな地震が大嫌いで、
「地震が起こることなんて考えたくないよー」って
取材するのも嫌がっていたけど、
佐藤さんから大事な話を聞いて
前向きに取り組めるようになったんだよ。

ぜひ、みんなにも記事を読んでもらいたいな！
「特別号・災害に備えて」は、下のQRコード、
またはURLからご覧ください。



<https://npo-cnccp.org/5273>

CNCP 通信へのご
意見・ご感想をお寄
せください。



▼会員紹介

青くて、広い、日本の空の実現に向けて！

NPO 無電柱ネット

NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク
事務局
塚田 泰二



NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワークは、日本の街を電柱や電線のない、安全安心で、美しい景観にするための街づくりを行うすべての機関を支援している、日本で唯一の無電柱化に特化した非営利活動団体で、2007年に設立しました。

■日本の電柱・電線の現状

現在、日本には約 3,600 万本の電柱が建っているとされています。

その電柱からはクモの巣のような電線や無機質な機器等が空を覆うように無秩序に張り出しています。

これまで、電柱や電線は、高度成長期日本の電力の供給に大いに役立ってきました。

しかし、景観という観点では普段、我々の視界を遮るだけの存在ですが、ひとたび災害が起きれば人命を脅かす凶器に変わります。

1995年の阪神淡路大震災では、多くの電柱が倒壊しました。電線が切れたことによる火災も発生し、さらに、倒壊した電柱が一刻を争う緊急車両の通行を妨げ現場到着を遅らせました。もし、神戸や淡路の街がもう少し電柱や電線が地中化されていたら多くの人命が助かったかもしれません。

近年、多発する地震に加えて、地球温暖化による台風・豪雨被害の激甚化が顕著になっています。また、インバウンド需要の高まりとともに国内の観光地を中心とした街並みの整備も重要性を増してきています。

このような背景のもと、私たち NPO 無電柱ネットは、無電柱化を推進する団体として、様々な取り組みを行っています。

■シンポジウム、セミナーの開催、展示会の出展

設立当初の 2007 年から無電柱化推進のためのシンポジウムやセミナー、勉強会を実施しています。

無電柱化の推進に関する法律（無電柱化推進法）が 2016 年 12 月に施行されたのを機に、無電柱化推進のシンポジウムを、東京・大阪・沖縄・北海道・名古屋・金沢・福岡・仙台・広島・松山・沖縄の石垣島で開催。様々な関係者を招いて講演や座談会（パネルディスカッション）を実施しています。



無数の電線・電柱（鹿児島市）



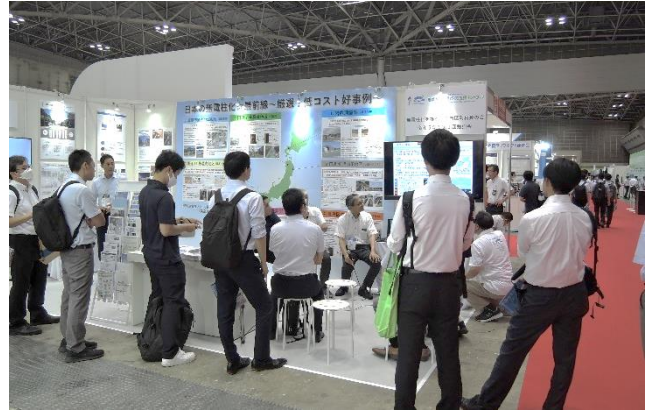
地震による電柱倒壊（神戸市長田区）



無電柱化推進のシンポジウム（福岡市）

国土交通省道路局の担当者や他の省庁、行政機関の担当者に、無電柱化推進の目的や国の無電柱化推進のための政策の説明を、各自治体の担当者には、無電柱化の取り組み事例の紹介を、街づくりや防災の専門家には、客観的な見地から無電柱化についての効果や提言を、電線管理者（電力会社・通信会社が主）には、無電柱化の取り組み状況や、低コスト・スピードアップの事例紹介や開発の現状説明をお願いしています。

また、無電柱化の低コスト製品や施工事例を広く知っていただくために、東京ビッグサイトなどで無電柱化推進展（2023年で第11回を数える）の出展も行っています。当展示会は、主催者の一般社団法人日本能率協会からの要請で協賛団体として参加しています。



無電柱化推進展（ミニセミナー）の様子

■当 NPO 各支部（北海道・東京・中部・大阪・九州・沖縄）活動委員会の開催

当 NPO の正会員に呼びかけ、無電柱化の技術面、法制度などを定期的に検証し、実用化を目指した勉強会を実施しています。また当 NPO の各支部では、支部長を中心に地域に根差した活動も行っています。更に業務提携をしている無電柱化を推進する市区町村長の会会員（主に無電柱化の施工に関わる自治体の担当者）にも当 NPO 勉強会の参加を呼びかけています。

東京や大阪で行っている活動委員会は、地域の枠を超えて、オンライン中継での参加を募っています。

■無電柱化支援事業

電柱や電線のない安全安心で美しい景観の街づくりを実施したいと思っているすべての機関（不動産・ディベロッパー・行政等）を技術面で支援しています。勉強会を実施して、無電柱化の理解を深めてもらい、複雑な手続きが多い無電柱化の交渉に対して円滑に進められるようにアドバイスさせて頂いています。



地元住民との無電柱化勉強会（那須塩原市）

■研究開発・視察会

国土交通省が現在計画・実行している第8期無電柱化推進計画では、「無電柱化には、お金と時間がかかる」という課題を解決するため、低コスト化（現行より20%のコスト削減）とスピードアップ（平均7年かかる工期を4年に短縮）を目標に掲げています。それを実現するには民間の技術が欠かせません。

当 NPO は民間技術を募り、または支援し、その広報をしています。会員企業とともに、現行の整備手法・技術の整理と課題分析を行い、国土交通省・自治体に提案をし、情報を共有しています。

新技術・市場動向調査の実施や新たな無電柱化手法の創出をしています。当 NPO の会員から新技術・工法を募り、国土交通省の上部組織である無電柱化推進技術検討会に民間の立場で提案しています。

※当 NPO 理事・事務局長の井上利一が、国交省の民間部門の部会である民間サブワーキンググループ（民間 SWG）の主査を務めています。

当 NPO の提案から無電柱化の低コスト製品・工法の技術が少しずつ実績をつくっています。



無電柱化住宅見学会（さいたま市）

また「百聞は一見にしかず」として、無電柱化に関わる施工事例や無電柱化住宅見学会も実施しています。無電柱化された街並み視察会、無電柱化の施工現場や低コスト手法による実証実験の見学、住宅地その他、重伝建地区や観光地、商店街等なども見学する機会を作っています。

■ 広報活動（無電柱化の日イベント・マスコミ対応など）

近年、景観面や、激甚化する災害での電柱・電線の倒壊によって道路を遮り、一刻も早く助けなければならない命が救出できなかつたり、物資が届けられなかつたり、大規模な停電が発生したりすることから、テレビや新聞紙面などマスコミから無電柱化の必要性の解説を依頼される機会が増えています。

また法律で定められている無電柱化の日(11/10)にイベントを行い、市民への啓発活動もしています。

私達の日常では、電柱・電線があるのが当たり前。これを「電線病」と呼ぶ専門家もいます。

この電線病の克服には、無電柱化の現状や課題、世界との比較を正しく学ぶ必要があります。

私達NPOは無電柱化出前授業(小学生向け)や無電柱化出張講義(大学生向け)を通じて無電柱化のよさを教えます。無電柱化授業・講義やインターン生を随時募集しています!!

無電柱化を進めるには、国民の理解が必須です。そのために当NPOでは様々なイベントや広報事業を実施しています。

ホームページを介しての広報活動、出版物・会報誌「美空」(毎月発行)の発行、マスコミ・新聞社・出版社への取材受け入れ、無電柱化キャンペーンの企画と実施(11月10日無電柱化の日企画、インターン生企画・無電柱化フォトコンテスト)、無電柱化出前授業の開催(主に小学校高学年と大学生)、インターン生の受け入れ(毎年春と夏)、WEBによる広報活動強化(動画コンテンツ)などを行っています。



無電柱化の日に行われているパネル展(札幌市)



小学校での無電柱化出張出前授業(船橋市)



無電柱化の解説でテレビ出演している井上利一 当NPO 理事兼事務局長

- ◎NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク
- ◎NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク
- ◎NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク
- ◎2023年までにインターン生が行った企画をご紹介します!

- ホームページ
- 法人経歴書
- 会員募集など

- <https://nponpc.net/>
- <https://wp.me/P5dgbh-1rL>
- <https://wp.me/P5dgbh-BO>

<https://nponpc.net/info/intern%ef%bd%9e2023/>

CNCPは、
あなたが参加し、
楽しく議論し、
活動する場です！

お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人
シビルNPO
連携プラット
フォーム

●登録事務所

〒110-0004
東京都台東区下谷
1丁目11番15号
ソレイユ入谷9F

事務局長 田中努：

cnpc.office@gmail.com
ホームページ URL：
<https://npo-cnpc.org/>



▼事務局通信

■5月の実績

●第121回経営会議

開催日・場所：5月14日（火）WEB会議

議題：各事業の進捗と予定／プロジェクト特別調査研究費

■6月の予定

●第121回経営会議

開催日・場所：6月14日（金）WEB会議

議題：各事業の進捗と予定

■現在の会員と仲間の数

●会員：賛助会員30／法人正会員10／個人正会員24
／合計64

●仲間：サポーター107／フレンズ120／土木と市民
社会をつなぐフォーラム15／インフラパートナー18
／合計260

●CNCPの活動には下記の賛助会員の皆さまのご支援をいただいています（50音順・株式会社等省略）。

アイ・エス・エス／アイセイ／安藤・間／エイト日本技術開発
／エヌシーイー／奥村組／オリエンタルコンサルタンツ／ガイ
アート／熊谷組／建設技術研究所／五洋建設／佐藤工業／シン
ワ技研コンサルタント／スバル興業／セリオス／第一復建／竹
中土木／鉄建建設／東亜建設工業／東急建設／ドーコン／飛島
建設／土木学会／西松建設／日本工営／パシフィックコンサル
タンツ／フジタ／復建エンジニアリング／復建調査設計／前田
建設工業（以上30社）



土木と市民社会を
つなぐフォーラム



インフラパートナー
JSCE 土木学会